

景況 レポート

1月分

情報連絡員 80名

厳しい経営環境に 明るさ見えず

～売上低下の業界多く～

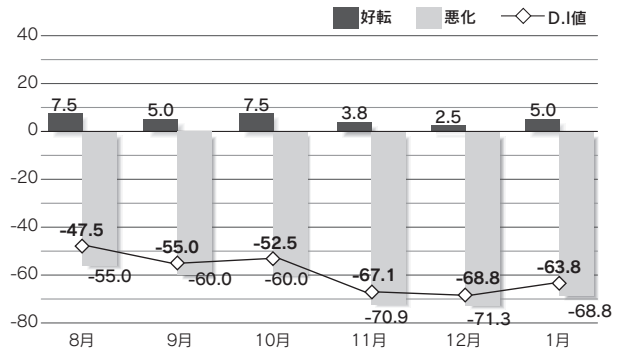
概況

1月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが5.0%(前月調査2.5%)、「悪化」が68.8%(同71.3%)で、業界全体のDI値は-63.8となり、前月調査と比較し5.0ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-71.9で前月調査(-75.0)に比べ3.1ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-58.3で前月調査(-64.6)に比べ6.3ポイント上回った。

(回答数：80名 回答率：100%)

業界全体好転悪化割合 [前年同月比]



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							【凡例】 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 くもり △10以上 10未満 雨 △30超 △10未満 雷雨 △30以下
非製造業							

業界の声

豆腐油揚製造	取引先のスーパーにも不況感が出てきており、殆どの店が前年対比で売上が下がっている。そのため売上維持のための特売を要求され、収益が低下している。
清酒製造	12月分の清酒出荷量は3,671kℓで、前年同月比94.4%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で100.0%、純米酒が95.0%、本醸造酒が89.2%、レギュラー酒が94.8%という状況になっている。
パン製造	昨年10月から販売不振の状態が続き回復していない。正月明けの売上は最悪。県外メーカーの安売りも目立ってきている。
繊維・同製品	春物の生産が始まり幾分仕事量は増えつつあるが、デザイン的に手の込んだものが増え、収益率は好転しない。
木材・木製品	住宅着工戸数の低迷から景況は冷え込んだままである。原木価格は、強気配が後退し落ち着きを取り戻してきている。集成材製品は低価格のまま推移しているが、一部、杉集成材用ラミナ材の動きは順調である。
一般機器	昨年度は12月後半から2月にかけて売上の減少が著しかったため、前年同月比では売上が増加した。
自動車販売	1月の新車販売台数は、登録自動車が1,820台(前年同月比197.0%)、軽自動車が1,322台(同102.9%)で、合計3,142台(同142.2%)であった。登録自動車は7カ月連続して前年同月を上回った。
電機販売	エコポイントの効用が続いており、売上は増加している。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり125円で前月比2円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり104円で前月比1円の引き上げ、灯油(配達込み)は18ℓ宅配で1,290円で前月比21円の引き上げとなった。全国的な寒波により灯油の出荷量の増加等で一息ついた感があるが、仕切価格が上がってきているため経営環境は依然として厳しい。
商店街	歳末商戦同様、郊外大型店・近隣大型店に客足を奪われ、売上額は減少傾向にある。需要の低迷が続いているが、家電等一部業種では堅調に推移した。[秋田市] 商店街全体が冷え込んでおり、売上は低水準のまま推移した。商店街唯一の玩具専門店が廃業した。 [湯沢市]
運輸	年が明け、輸送量は低迷している。県南では、昨年度は12月から2月にかけて最も輸送量が落ち込んでいたため、前年同月比では売上が増加した。